

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の強風軸に対応する前線が、西～東日本の日本海側沿岸を通り日本の東へのびている。西日本では、前線の暖域側で非常に激しい雨を解析している所があり、発雷を多数検知。
- ② 500hPa 5460m付近で-21℃以下の寒気を伴うトラフに対応した低気圧がオホーツク海を東北東進。北海道付近に前線がのびている。
- ③ 沖縄の南の上層寒冷低気圧(UCL)が西進。南西諸島から九州付近にかけて、UCL周辺で非常に激しい雨を解析し、発雷を多数検知。
- ④ 千島の東の高気圧が東へ移動。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、16日朝にかけて、次第に西～東日本の太平洋側へ南下する。1項③の沖縄の南のUCLは、15日朝にかけて沖縄の南を北上し、南西諸島の上空に寒気が広がる。前線に向かう下層暖湿気や1項④の千島の東の高気圧の縁辺を回る下層暖湿気の流入、上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う非常に激しい雨の降る所がある。西日本では15日は、東日本と東北地方では16日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょう、短時間強雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 16日は、2項①の前線は南下し、東日本太平洋側を中心に前線の北側で降水が広がる。また、台風が南鳥島近海から小笠原近海へ進む。また、前日に引き続き、西～北日本の上空には寒気が残る。台風の周辺から前線に向かう下層暖湿気や上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。東日本では16日は、土砂災害に注意・警戒。北～西日本では16日は、落雷、突風、降ひょうに注意。
- ③ 17日は、日本海に張り出した高気圧により、北日本を中心に晴れる所が多くなるが、西～東日本では前線の影響で雲が広がりやすく、東日本を中心に降水が見込まれる。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①、②の前線の位置や降水域の広がりには不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：東海・九州南部100mm。

②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。